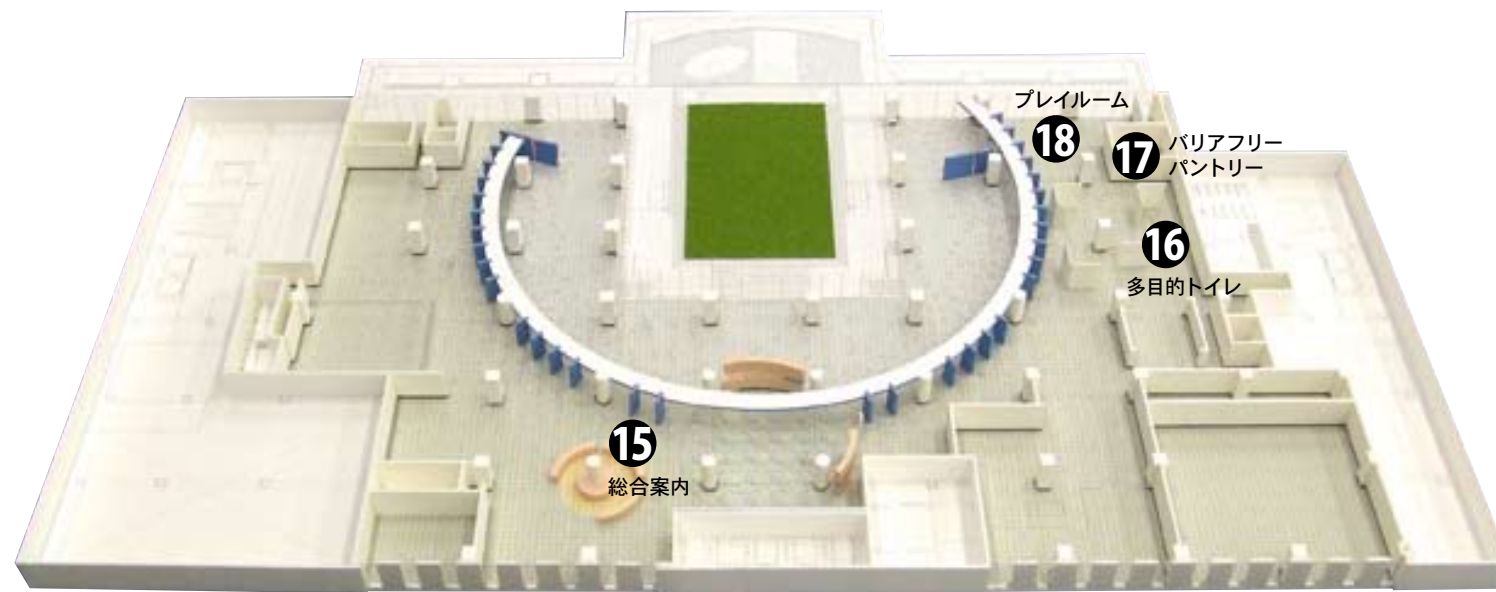


# 誰もが使いやすい ユニバーサルデザイン

さいたま市市民活動サポートセンターは、老若男女を問わず、障がいを持った人もそうでない人も、誰もが使いやすい施設とすることをめざしました。そのために、福祉や建築の専門家を含めたプロジェクトチームで図面や備品カタログなどを検討し、さらには現地でサインの使いやすさ・見やすさなどのチェックと改善を行ってきました。予算とスケジュールの制約で不十分など残っていることは否めませんが、それでもある程度の成果はあげられました。(p.48-57,70-73)



施設の使いやすさは、サインで大きく左右される。サイン設計の確定前に現地見学を行い、その位置や形を可能な限り見やすく使いやすくした (p.8 写真5点。円形の写真は最終決定される現在の姿の前の案)。ただし、施設が広いため慣れない利用者には分かりづらいことがあるので、開館後、サインを指定管理者が追加して設置している。(p.55-57,70-71)



18 小さな子どものいる人が安心して使えるように設けられたプレイルーム。(p.67-67,71)



17 障がいのある人も使えるように配慮されたバリアフリー・パントリー。(p.35-36,38,51,71)



16 多目的トイレ(みんなのトイレ)では、身体に障がいをもった人、小さな子ども連れの親なども使えるようにつくられている。ただし、スペースの制約があるサポートセンターの多目的トイレでは、その中で車イスに乗ったまま回転することは難しく、10階(こちらには介護用ベッドもある)のトイレを利用してもらうことになる。また、便器脇の手すりは、9階では左側、10階では右側に設置し、どちらか便利な方を使用してもらえるようにした。その情報は、施設の利用案内パンフレットやホームページにも掲載している。



15 専門性をもった市民が図面をチェックして車イスでも使いやすいように高さを抑えた総合案内のカウンター。(p.55,70-71)